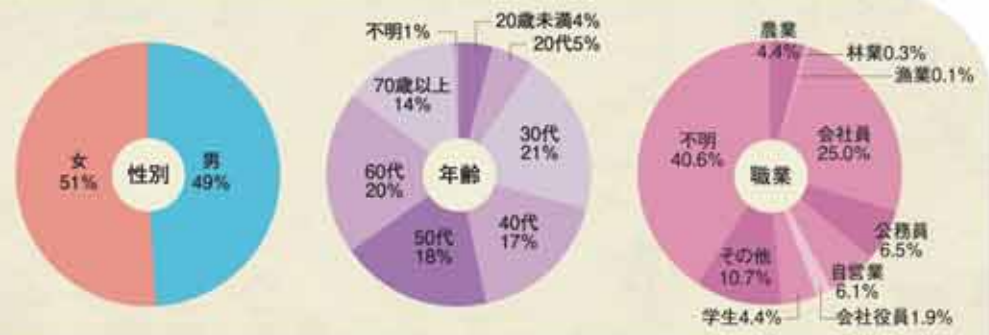
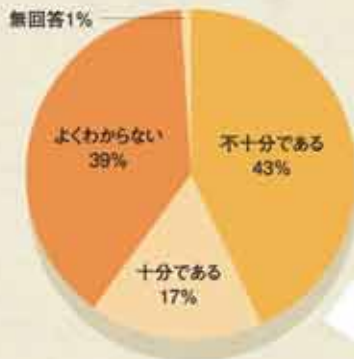


アンケート結果

平成19年7月16日に実施した「太田川の川づくり」アンケートには、3167通の回答が寄せられました。ご協力ありがとうございました。



問1-1 太田川の災害対策について。



「十分である」17%に対し、「不十分である」は43%。倍以上の方が災害対策は不十分であると考えています。被災地域に限定すると、70%の方々が「不十分である」と答えました。

問1-2 太田川の災害対策として、どのような対策が必要だと思いますか。（複数回答可）

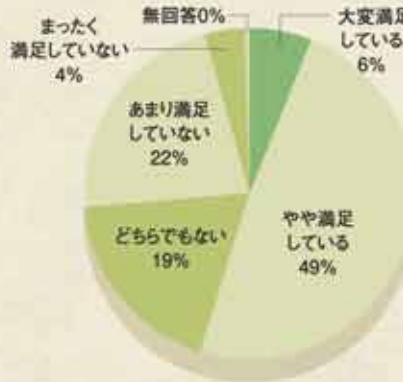


平成17年・18年の上流被災地域



洪水対策としての「堤防の強化」が最も多いという結果になりました。「災害時の情報提供」「防災意識の普及・啓発を図るための広報」と続いています。「今のままでよい」はごくわずかであり、なんらかの災害対策がこれからも必要であると考えられています。

問2-1 現在の太田川について。



「大変満足している」「やや満足している」をあわせて55%。半数以上の方が太田川に環境に満足しています。

問2-2 太田川について、よりよくするために何が重要だと思いますか。（複数回答可）



「多くの生物が生息できるような川にすること」「これからも良好な水質を保つこと」が最も多くなりました。また、「自然と親しめる場を整備すること」「川で泳いだり水で遊んだりできる場を整備すること」なども多く、身近に川に親しむことへの関心の高さがうかがえました。



問3 太田川の水がいろいろな用途で、また、鳥しょ部等、広域的に利用されていることをご存知でしたか。

「今回初めて知った」は2割程度。広域に、あるいは多目的に利用されていることを、多くの方が知っているようです。

問4 現在の太田川について、あなたはどのようにお感じですか。ご自由にお書きください。

- 緑豊かな自然に恵まれ、水辺に人々が集い広島の平和の象徴であると思う。
- 以前に比べ水質や環境が良くなってきているだけでなく、新しい利用(オープンカフェ、水辺のコンサート、雁木タクシーなど)で活気が出てきていると思う。
- 日本名水100選に選ばれた太田川ということで、広島市は水道水がおいしい都市という事がとても嬉しく思います。
- 表面は良い感じ。しかし、水が引けば川床が出てくるとヘドロで汚い。きれいな川とは思えません。
- 普段は安全であることが当たり前と思っていましたが、今回自分たちが住んでいる地域が台風時に浸水する恐れがあると知り驚きました。
- 最近相次ぐ地震、台風、記録的な集中豪雨、高潮被害など、自然災害が非常に多く発生しています。これらは異常気象と呼ばれていますが、もはや「異常」ではなく、度重なる自然災害が起こることを前提とした抜本的対策を真剣に考えなければならない時期にきていると考えます。
- 不許可のレジャーボートなどを橋の欄干に係留して放置、撤収させないなど、対策が甘すぎる。特に本川が目立つ。

問5 今後、どのような太田川になることを望みますか。ご自由にお書きください。

- 多くの水生生物が生息系を守られ、いつまでもきれいな水質が保たれると良い。
- 魚がすみ、子供たちが水遊びできるきれいな川であってほしいです。
- 政令指定都市にふさわしい都会的で自然も豊かな他県の方や外国の方からも美しいと思われるような河であってほしいです。同時にデルタ地帯は土地が低いので水害にもしっかり対策をお願いします。
- 河川敷の整備やせせらぎ公園のような水辺の自然に人が集まる安心して遊べる川づくりを願っています。とにかく色々な災害に強く、オープンカフェ、水辺のコンサートが開かれるのが理想です。
- 最近の異常気象から、洪水・高潮の災害が頻りに発生している。規模・範囲・時間等の条件がわずかも違っていたら、甚大な災害になっていたことが明確です。災害対策が十分であるとは思いません。自然環境の面からはダムを作らないことが望ましいが、他の対策による事が難しいことを考慮すればダムによる方法もやむをえないと思う。ただし、極力環境に配慮する。
- 最近の自然災害は予想を超えるほどの大きさになっています。日ごろからの防災意識や災害対策を強化し、生命・財産を守る「太田川」にしてほしい。
- 今まで以上にきれいで安全な水になり、人々も水遊び、釣りができ、川やその周りの木々をうやまい、こみ一つない川になってほしいです。
- 自然と共存。美しい自然、豊かな水を守ってほしい。地域の特性を活かし、皆が楽しめる場であってほしいと思います。
- 水は上流(山・林)で発生、流れてくるので、山を大切にすることに力を入れたらよいと思います。杉・檜の植林を減らし、広葉樹林の山をより多く育てることが必要(山の保水力を高める)。
- 上流・中流・下流域の特長を活かし融合してほしい。例えば、上流は自然のまま、中流は自然との交流、下流は地域との密着(イベント)。
- 治水、利水、環境のバランスのとれた川づくりを望む。①安全・安心の川づくり ②安定的な水の供給 ③人と自然との共生。